



物流から考える
とちぎの未来

section 16

企画・制作／下野新聞社ビジネス局

栃木県内は、輸送のほとんどをトラックが担っています。貨物自動車運送事業は中小企業が少なくありません。篠崎運送有限会社(宇都宮市)の篠崎泰三社長に「2024年問題」や人材育成の取り組みについて伺いました。

「誇り」を育む運送会社の挑戦

精密測定器からレース鳩(バト)まで。創業時から「お客さまのご要望に応える」という一心で走り続け、今では多種多様な荷物を運んでいます。私は4代目の社長として、これまで築き上げたお客さまとの信頼関係を何よりも大切にしています。

価格競争になりがちな業界ですが、既存のお客さまとの関係を深めることで、業績を上げてきました。新規の仕事のほとんどは、お客さまからのご紹介によるものです。時代に合わせてDX等を導入し、高品質な輸送を追求し続けた結果が、この信頼につながっているのだと自負しています。

業界を揺るがす「2024年問題」も、私たちにとっては好機ととらえました。法施行の2年ほど前から全てのお客さまに法改正の趣旨を説明し、労働時間を順守するための運行計画にご協力いただきました。コンプライアンス意識の高いお客さまに助けられ、今では健全な運行体制を共に築き上げています。

「運転手だから」で変革決意

高品質な運送はもちろんですが、「ドライバーの社会的地位を向上させること」にも力を入れています。その原点は、入社したての頃の忘れられない出来事にあります。あるシングルファザーのドライバーが娘の学校行事の日に休みを申請しました。しかしながら仕事を立て込んでおり休みになりませんでした。

仕事を早く終えた彼に「今からでも間に合うんじゃないか」と声をかけましたが、彼は寂しそうに「運転手だから」とつぶやいたのです。汚れた作業着姿で他の保護者の中に混じることをためらう彼の背中には、今も脳裏に焼き付いています。

この日を境に「社員が仕事に、そして会社に誇りを持てる環境をつくらなければならない」と固く決意しました。

トラックドライバーという職業は昭和の時代の映画のイメージを今も

引きずっています。業界自体は変化していますが、一般の皆さんにはなかなか伝わっていません。小さな会社の小さな一歩かもしれませんが、世間から正當に評価され尊敬される仕事になるように、まずは自社から変えていきます。

働きやすさと人づくり

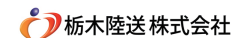
具体的には、オートマ車の導入や長距離運転でも疲れにくいシートの採用、社員同士のコミュニケーションへの補助、福利厚生 の充実など働きやすい環境づくりを進めています。また、あいさつや安全教育、万が一の事態を想定した実地訓練などを通じて、全社員がプロフェッショナルとしての知識と技術を磨き続けています。これらは輸送品質の向上」という、本業の評価にもつながりました。

「篠崎運送にいた人材なら間違いない」。たとえ当社を離れた後でも、そう評価されるような人材を育てること。それが、「輸送品質の向上」とともに私の目標です。



篠崎運送で使用する車両

私たちはハコブトチギを応援しています



ハコブトチギ
特設Webサイト



過去の連載は
こちらから
ご覧いただけます

